

LIOJ特訓課程——入学案内

LIQJ

(LANGUAGE INSTITUTE OF JAPAN)

主催 財団法人MRAハウス



本課程は英語というメディアを通じて世界の平和と繁栄に具体的に貢献することのできる人物を作ることを目的として昭和43年3月開講いたしました。

短期集中訓練でありますから、受講者にはかなりの負担がありましたが、第1回受講者は全員これに堪えて、既にその多数が海外の大学又は勤務先で大いに活躍しております。「生きた英語」という建前から全寮制による外人講師との生活も、外人との健全な人間関係をつくるという意味で可成りの成果があったように思います。

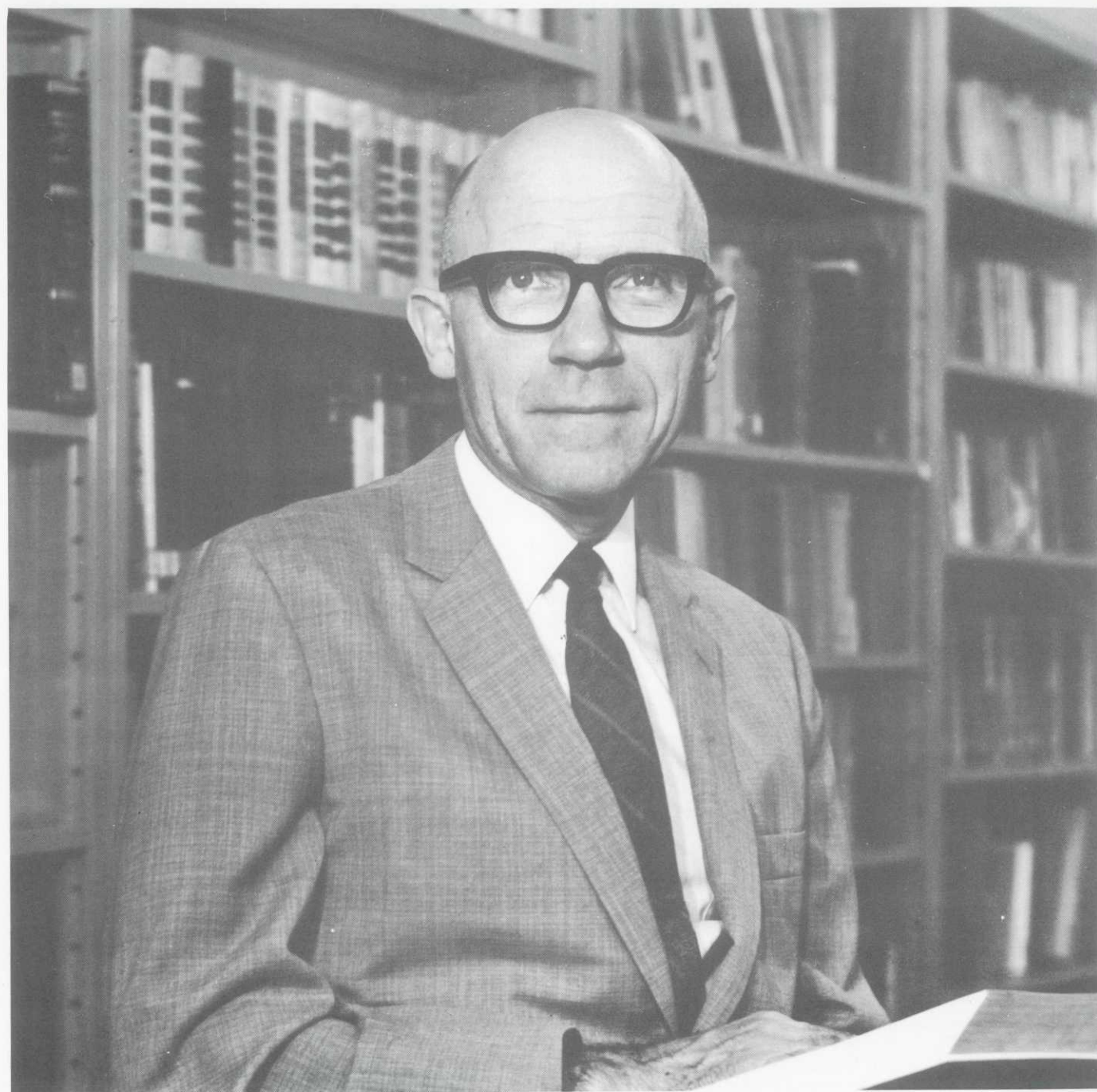
第2回からは特にこの点を強化するため受講者の多くと同世代の外人大学生をアメリカから招き、英語を学ぶかわら彼らにも東洋の実態を知らせるという試みをはじめ、相当の成果をあげております。

ソニーL・Lシステムその他器材、教材の面でも次第に充実してきております。言語はその国の生活と文化の総合的な表現であり、言葉を知る事はその国の本当の姿を知る事であります。

将来世界に雄飛し東西文化の融合につくそうと思われる若い方々がふるって参加されることを希望いたします。

財団法人 MRAハウス

代表理事 渋沢雅英



The more the world shrinks in size through technical advance, the more necessary it is to reach across national barriers. The ability to understand and communicate by means of English becomes more important every day.

Our intention here at the Language Institute of Japan is to make this communication possible in the quickest and most efficient way.

We are committed to the idea that English is learned through use rather than by analysis and the study of grammatical rules, that real mastery of a language requires familiarity with the culture which has produced it, and that English, to be fully appreciated as an international language, requires a world outlook.

These are the things we aim to give at the L.I.O.J.

Rowland Harker

校長 ローランド・ハーカー先生略歴
 1913年米国カリフォルニア州で生まれ、レッドランズ大学、南カリフォルニア大学、エール大学、英国のオックスフォード大学など英米の名門校で哲学を専攻。昭和14年来日以來、戦前の第一高等学校、戦後青山学院・学習院大学で教鞭をとり、その間常陸宮(義宮)殿下に英語特別教授を准講された。

STAFF OF LIOJ

Principal: Mr. Rowland Harker
 Director of Studies: Miss Toneko Kimura
 Teachers: Miss Lee Ellen Cheney
 Mr. Hurst Coffman
 Mr. Mark K. Dillon
 Miss Lynell Esterwold
 Miss Carol Josselyn
 Miss Nora Kathleen Larimer
 Mr. Raymond Charles Martin
 Mr. Don Holden Mattox
 Miss Joy Noren
 Miss Vicki Lynn Wiersma
 Mr. Hugh Wilkinson
 Advisor: Mr. Sen Nishiyama
 Student Advisor: Mrs. Rowland Harker
 Business Manager: Mr. Nobuo Hattori
 Executive Director,
 MRA Foundation: Mr. Masahide Shibusawa



第4回 LIOJ特訓課程

目的：

本課程は、16週間の全寮制による英語集中教育を通して英語の読解力を完全なものとし、海外での勤務、学習をより円滑にするための英語力を育成すると共に流動する世界に雄飛し東西文化の融合に貢献する新しいタイプの日本人に教育することを目的とします。

入学資格：

男性、女性、年齢、学歴に関係なく、高校卒程度の基礎英語力を持つ方ならどなたでも参加していただけます。

場所：

神奈川県小田原市十字4丁目1007 MRAアジアセンター
当センターは箱根山を背に、相模湾に面した景勝の地であり、地下2階、地上5階の近代的な建物の中に教室、図書室、ロビーなどの他に海外生活と同じ様な宿泊設備、食堂、浴室を備え冷暖房装置も完備しています。

期間：

昭和44年10月5日から昭和45年2月7日までの16週間

休日：

11月2日、3日、30日、12月22日～翌年1月3日
これらの休日に限り前日からの外泊が認められます。

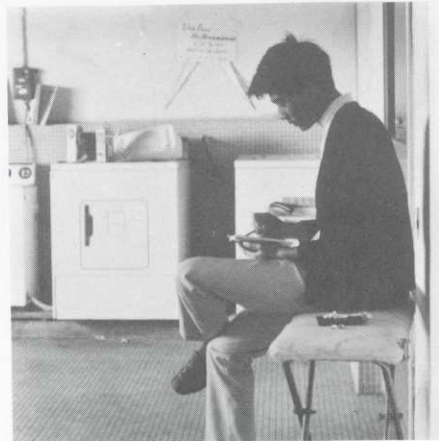
受講費用：

授業料（1週間当り）	9,500円×16週
器材使用料（"）	1,900円×16週
生活費（宿泊、食事他一般）（"）	5,600円×16週
合計	272,000円

LIOJ 第4回 特訓課程スケジュール(16週間)

第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第6週	第7週	第8週
<p><1969年 10月 5日—11月 1日> ●ヒヤリングと基礎表現開発の訓練、これには“English900”を教材の一部として使用します。</p>				<p><11月 2日、3日>*休講</p>			
<p><11月 4日—29日> ●英語発想による英作文の方法および海外ニュースが聞きとれる程度等各種のヒヤリングの訓練と講義。</p>							
第9週	第10週	第11週	第12週	第13週	第14週	第15週	第16週
<p><11月30日>*休講</p>			<p><12月22日—70 1月 3日>*休講</p>				
<p><12月 1日—21日> ●全課程の統行のほか、選択科目として英語弁論、商業英語、大学程度の英作文、タイプ、経済問題、自然科学、家政学、エチケットのクラスが加わります。</p>			<p><1月 4日—11日> ●第9週～第11週のつづき</p>				
<p><1月12日—2月 7日> ●全課程の統行 スピーチコンテスト、フォーマル デイナーパーティ。</p>							

一日のスケジュール	7:00.....起床	6:00.....夕食
	7:30.....朝食	{ 7:00ラボによる会話練習(一人約45分) { 9:30
	8:15 4 課程	
	12:05.....昼食	土曜日、日曜日は、映画、フォークソング、スクエアダンス、ビーチパーティ、ハイキング等予定されています。
	1:00自由時間(スポーツ等課外活動)	
	4:00少人数での会話練習とラボ使用	
	5:50.....	



本講座の特徴

言葉は生活なりと申します。学生は16週間外国人教師と共に生活する全面的集中教育により出来るだけ早く能率的に英語を実施に身につけると共に、外国人スタッフとの生活は食事、生活態度、運動、レクリエーションなど24時間の全てが海外生活の雰囲気の中で行なわれるので、欧米民族の文化の本質と感覚を自然に体得いたします。





一般教養課程の英語による復習

海外勤務、あるいは国内の外国系企業勤務の方々に対しては、特に商業英語講座を設け会話・読解・作文の各方面に、実用英語の理解、会話のためのプログラムを組んでいます。

留学や海外勤務の際要求される英文読書の速度と理解力を促進し、論文の発表、スピーチコンテストなどによる英語での表現力育成をも目標にします。

語学としての英語をマスターすることの他に、人文科学社会科学、時事問題、世界情勢を論じる時間も作り、英語による一般教養を身につけるプログラムもあります。

LIOJ, 卒業生のことば

アメリカ人でも相当なインテリで語学力がないとなれないPACEマガジンのスタッフ・ライターになって早一年、よく、アメリカ人から「一体どこで何年間、英語を習ったのか?」と聞かれる。そこでいつも「4ヶ月程小田原にある英語特訓学校で習った」と答えている。

もちろん相手はビックリして、ため息をつく。

事実、学生時代は、反米、英主義者である事がかっこうの理由として、英語学習を怠けてきた。日本で雑誌記者(実業の日本)としての経験を積んだことは大きいですが、それにしても、この特訓コースなしには、外国雑誌の記者になるなど、夢にも実現出来なかつたろう。

LIOJで丸暗記した日常会話、「ENGLISH 900」の基礎文型は、非常に役に立った。それとともに、一般教養の生物、数学、歴史などのレクチャーは、日常生活に必要な単語力を与えるもので、LIOJのユニークな長所の一つであると思う。

相当な資金と時間を投じて、4ヶ月、合宿したわけだが、有意義な投資をしたと満足している。

PACEマガジンスタッフ・ライター

カリフォルニア州ロスアンゼルス 波多野 三郎

私が米国に来ました折、会話にしても、学校の講義にしても、ほとんど全部理解することができて、とてもうれしい思いをしました。これは小田原のLIOJで勉強したおかげだと感謝しております。

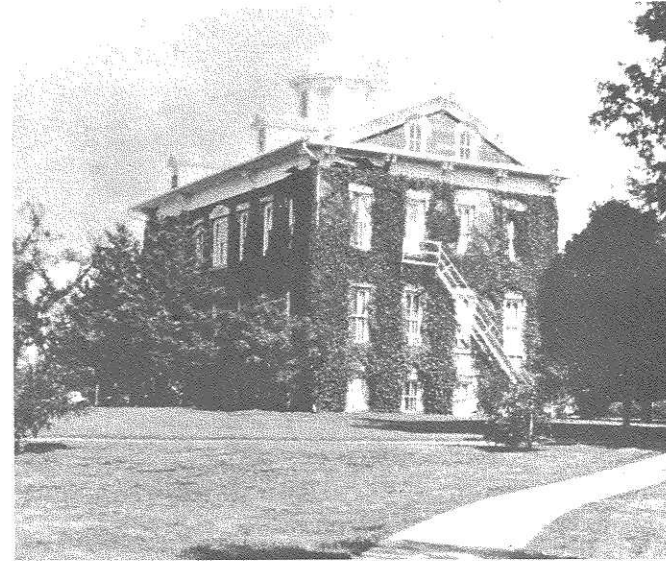
ロードアイランド ブラウン大学
井深 亮

私が日本の高校を卒業してすぐにアメリカの大学に入学できたのは、かなりきびしい勉強でしたが、英語を完全にマスターするためにLIOJで基礎をしっかり身につけることができたからだと思っています。

カンサス州オタワ オタワ大学
小野木 英敏

LIOJに来た当時の私の英会話のアビリティは粗末なものでした。今でも充分とはいえませんが、すくなくとも、自信をもって英語で話すことが出来るようになりました。これを、おつたえ出来ることを嬉しく思っています。

アメリカ保険会社員 斉藤啓司



本講座に派遣されたスタッフの各大学風景

LIOJは、アメリカへの留学希望者に対して、適切な大学の紹介や手続きをお手伝いいたします。
講師や学生の派遣を通して密接な関係があるアメリカの多くの大学との広い交流は、大いにお役に立つことでしょう。

●MRAアジアセンター：神奈川県小田原市十字4-1007 〒250 Tel 0465-22-6131

●MRAハウス 東京都港区南麻布4丁目9番17号 〒106 Tel 473-2156 (8月31日まで)

TEL ~~444-7334~~ (9月1日より新番号)

445-5111